

発言メモ

平成 26.9.24 連絡会議
京丹後市長 中山 泰

工事関係

引き続き、周辺環境や住民の安全に配慮しながら工事を進めていただきたい。必要な情報連絡も前広にお願いする。

交通環境はじめ不測の事故防止徹底のための安全・安心の確保の関係

(交通環境への十分な留意と講習の受講等)

- 1 交通事故防止に関し、都市部とは違い、特に京丹後の道路環境として、道路の幅員も狭く、片道一車線で、幹線道も含めて歩道のない道路が多い、ヘアピンカーブなどの急カーブも多く、冬季には降雪もある、このような、一車線で、民家に隣接した、歩道のない道路を、子どもたちや高齢者が、多く歩行や自転車通行をしており、自動車走行に当たっては、これらを十分念頭において安全運転の徹底をお願いする。
- 2 このため、想定外の事故防止のためにも、このような田舎の交通環境を事前に知得・体験していただくことがとても有意義であり、日本の道に慣れている方も含めて、警察が計画される自動車運転講習は、必ず受講いただくことをお願いする。
- 3 また、毎日の通勤に当たっては、申し上げたような交通環境にあるので、当面の期間以降の期間も含めて、マイクロバス等の活用への配慮をお願いする。
- 4 関連して、本市としては、田舎の交通環境に十分に慣れていない方が多いのではないかと想定の中で、通勤以外でどのくらいの車両が日常的に市内を走行することとなるのか、漠然としたものですが行政として可能な限り不安を解消しこれに伝えていくためにも、入域するYナンバー等車両の数(規模)をご教示願う。

(損害賠償関係)

- 5 万一の交通事故の場合に備えるため、賠償保険については、対人 3000 万、対物 300 万を下回らない保険加入が義務付けられていることをお聞きしているが、契約会社の軍属の方も含めて万一に備えた十分な内容で確実に願う。
- 6 その場合、万一保険の額を超える賠償を必要とされ示談も困難な場合、公務外の場合は軍人であれば地位協定 18 条 6 項の規定で、加害者に代わって米政府が支払う仕組みも用意され、被害者のこの面での鳴き寝入りの防止につながっていると聞くが、契約会社の軍属の場合であっても、被害者の泣き寝入りの防止が確実に図られるよう、軍人に準じた制度的な又は実効ある措置をぜひとも願う。

(緊急時の停波)

- 7 ドクターヘリ、海難救助ヘリ等が運行する緊急時には、当局からの要請等に応じ必要な停波については、確実に願う。

安全・安心のまちづくり全般について

受入れを巡り、様々な議論があったが、安全・安心の確保を前提に、受け入れについて協力をしていく旨、昨年、山田京都府知事とともに総合的な判断をさせていただいた。

それゆえにも、まずは大前提として、今申し上げたような、万一の事故防止や各種防犯の徹底、ドクターヘリ等緊急時における必要な停波など、この間の防衛省・政府とのやりとりを通じて広くお願いしている住民生活の安全、安心の確保の徹底については、軍属を含めた米軍として、真摯で主体的な取り組みを万全に願う。

このことに関し、当然、我々地域サイドにおいても、交通環境の整備など住民生活の安全、安心の確保のための必要な取り組みに万全を尽くしたい。

同時に、米軍関係者の皆さんにも本市地域に住んでいただく以上、新たに住人となる皆さんにも、同じ地域に住む生活者として、不安なく、互いに快適に住んでいただけるよう、行政としても万全に尽力したい。

加えて、米軍関係者の皆さんには、交通事故防止をはじめ様々な安全・安心な取組みをお願いするのだから、本市の側でも、同じ京丹後の住人、同じ地域に住む生活者同士としての仲間、よき隣人として、安心して、互いに喜んで住んでいただけるような環境づくりに誠心誠意努めたいし、それが道理であると思う。

このような相互の取組みの中にこそ、我々が求めている、京丹後の地域社会全体の本当の安全、安心の確保とますますの発展を育むことができると確信している。

このような姿勢を大事にしたいと思う中で、安全や安心を確保するための先ほどお願いしたような内容について改めて広く万般・万全にお願いしたいと思うし、同時に、いろんな市内や地域の行事や取組みなどへのご案内を含め、地域生活に円滑・着実に溶け込んでいただけるよう本市として真摯に努め、また、生活の面での懸念や要請等があれば、防衛省等のみならず市役所にも遠慮なく何でもご相談していただきたい。

なお、本市は、本年2月に京丹後警察署、京都府、関係団体、住民の皆さんとともに「京丹後安全・安心まちづくり宣言」を発出させていただいた。

内容的には、昨年、本市での犯罪発生件数、交通事故件数の少なさが双方とも京都府下でトップクラスになってきた状況を受け止め、同時にこれをよりよく発展させるため、「防犯意識と交通マナーの向上に努め、日本で第一級の安全で安心を感じられる住みよいまちづくりに取り組む」ことを宣言したものであり、今年も、先週から、秋の全国運動のタイミングに併せ、強化月間の取組みをスタートさせたところ。

新たな住人となった米軍関係者の皆さんにも、住人としてぜひこの運動にも一緒に加わっていただいて力を合わせて、京丹後の生活者としての仲間、よき隣人として、京丹後全体がますます住みよい、日本で第一級の安全で安心を感じられるまちづくりを育てていけますよう、誓い合いたい。